

日 時：平成 30 月 10 月 19 日（金）18 時 30 分 ～19 時 45 分

場 所：新山地区担い手センター

対象地区：新山、蒲田

参加人数：22 名

■要望、質疑応答

内 容
<p>○自主避難所の備品について (市民から)</p> <p>今年自然災害が多発し、台風接近に伴い3回自主避難所を開設した。幸い大きな被害はなかったが、万が一、一晩中ここで過ごすとなると座布団しかない。</p> <p>今度、新しい集会所ができた際には、楽に横になれるようなマットレスや毛布等を10～15セット位でもいいので配置を検討してもらえないか。</p> <p>(市から)</p> <ul style="list-style-type: none">・災害への対策は本当に必要なことであり、自主避難所を開設した場合には横になれるような備品も必要になってくるとは思うが、各町会の避難所にすべて市で配置するとなると難しいかと思う。・現在新しく体育館を建設しており、災害時には避難所になる。そういうところには、食料や毛布、マットレスなども配備することになるかと思う。・マットレスや毛布などについては、まずは小・中学校に設置しようということで、3年かけて整備しているところである。この地域でいうと猿賀小学校がその計画の中に入っており、約200人の避難者に対応できるようにする。・各町会内の避難所は一時避難所であるので、タオルケット等、家庭で不要なものがあれば寄附していただくなどの対応をとってもらいたい。・市内には67の町会があり、一つに10～20セット用意するとなるとかなりの数になり、使用後の管理なども大変なものになるかと思うので、町会での対応をお願いしたい。
<p>○平川市で生活するうえでの年配者の夢について (市民から)</p> <p>この懇談会に来ているのは大体が60歳を過ぎている人かと思う。私も年金生活に入っているわけだが、年金が目減りする一方である。若い人はいいと思うが、年配の人はどんな夢を持って暮らしていけばいいのか。また、市としてどのようなことをしてくれるのか考えを伺いたい。</p> <p>(市から)</p> <ul style="list-style-type: none">・現在、市としては、新しい総合計画の中で、様々な分野における行政の推進をしている。「魅力ある人づくり」、「活力ある仕事づくり」、「住み続けたいまちづくり」の3つを基

本目標として進めている。年金に関しては、市としてどうにもならない部分ではあるが、市民の皆さんが、平川市で生まれて、住んで、嫁いでくる等して良かったと思えるようなまちづくりを進めていきたいと考えている。

○旧こだま商店近くの丁字路について

(市民から)

元のこだま商店のところの丁字路に、横断歩道用のミラーが無いため、車が来ているのかが分からず渡ることができない。カーブミラーの管轄が警察、市のどちらなのか教えてもらいたい。

(市から)

- ・カーブミラーを所管しているのは市の総務課である。今設置されているミラーでは歩行者が車を確認できないため、歩行者用のミラーを設置してもらいたいというご意見かと思うので、現場を確認して対応を検討したい。

○民生委員のなり手不足について

(市民から)

民生委員になる人がいないということが問題になっている。新山地区でも前回やっていた方に引き続きお願いできないかと声をかけても、年だから他の人を探してもらいたいとのことで引き受けてくれる人がいない。

また、市役所等を退職した人などは、地域のことにも明るいし、そういった仕事についての知識もあるかと思うが、忙しさを認識しているためか、誰もやりたがらない。全国的にも問題になっていることかと思うが、市としての考えを聞きたい。

(市から)

- ・民生委員のみならず、保健協力員などもなかなかやる人がいなくなっている。町会の人をよく知っているのが町会長なので、市としても頼らざるを得ない状況である。
- ・市としては、職員に対して、地域との関わりを持ってほしいと常々伝えており、現職のときでも、退職してからもそういった活動をしてもらえるようお願いはしているが、任意であるため、強制はできない状況である。
- ・町会長の皆さんのご協力もあり、今現在、市では欠員は出ておらず、県内で見ても、欠員がないところは少ないのではないかと思う。
- ・基本的には、町会に選出・選任・推薦をしていただくことになっており、なかなか市側から指名するというわけにもいかない。どうしてもなり手がいないということであれば、役所の元職員などに声がけをするということはあるが、基本的には町会での選任をお願いしているので今後もご協力をお願いしたい。
- ・年齢制限はあるが、県や国の方でも、なり手がいないという場合やその人が適任であるということであれば、制限を越えても推薦が可能だということになっている。

(市民から)

年齢制限がないため、一度選出された人が辞められないのではないかと。3年なら3年で区切って辞められるようにすれば良いのではないかと。

(市から)

・そうすると次にやる方がなかなか見つからず、欠員が多く出ることになってしまう。何期も続けている方がいるということも認識しているが、そういった方に頼っていくしかないという現状となっている。

○ごみの投げ捨てについて

(市民から)

国道102号の側道周辺にごみが捨てられ、カラスがつつくなどして周辺が汚れている。捨てられたものを見るとコンビニで購入したものが多いようだ。コンビニなどに協力を仰いで、月に1回でもごみ拾いをしてもらおうなどの方策をとれないものか。

(市から)

・ポイ捨てはモラルの問題かと思うので、捨てないようにしてもらうのが一番かと思う。国の施策で、コンビニ等のレジ袋の有料化が進む動きがあるので、そういった動きが進めば今より減っていくのかもしれない。まずは、車から投げ捨てるのをやめてもらわなければならないと思うがなかなか難しい。コンビニなどにごみを片付けてもらおうというわけにもいかない。

○町会全体で集まる機会の創出について

(市民から)

新山町会では、子どもたちからお年寄りまでが集まる行事となると夏祭りやねぶたくらいしかない。ねぶたも平賀地域までは距離があり、費用がかかるため、市の合同運行に参加するのは難しい。子どもから大人までが集まる機会が少なくなっているためねぶた運行に補助を出すなど何か対策はないものか。

(市から)

・地域の方が集まって行事などをするのは大事だと思っている。コミュニティを大事にするために、納涼祭の開催などにコミュニティ助成金を支出している。
・ねぶたに関しては、おのえねぶた祭りは尾上地域の商工会において実行委員会を作って運営しているが、職員の減少などにより出来なくなるという話があった。しかし、廃止しないでほしいとの要望が出てきているため、今後、尾上地域の中で実行委員会を組織し、運営することが出来れば、祭りを続けていけるのではないかと考えている。
・合同運行に出ている団体に対しては補助金を出している。また、先日、尾上地域の住民

の有志で今後も運行できないかということで、関係者が集まって会議を開いたとのことなので、来年度以降も開催できるかもしれないと考えている。

- ・市としても経済的な助成等はしていきたいと考えている。実行委員会が立ち上がってからももう少し話を詰めていきたい。
- ・昨年「平川市スポーツデー」という、子どもから大人までが参加できる、簡単に楽しめる種目などを盛り込んだイベントを開催している。

○水路への蓋がけについて

(市民から)

新山地区の水路に蓋をかける工事について、3～4年前から町会要望をあげてきた。11月になれば工事に着工するという連絡が、建設課から新山水土里環境保全会に入って、そちらから町会へ連絡があった。これは町会としての要望事項としてあげているものなので、進捗状況について町会に連絡があるべきだと思う。

(市から)

- ・水利組合が関係しているのでそういった連絡経路になったかと思う。
- ・今年度から2ヵ年で工事を進め、管理する改良区や水利組合の関係者に連絡をしたものと思われる。業者が決まった段階で町会の方にも連絡をするべきであった。
- ・側溝自体を新しいものに入れ替えるので、通行に規制などをかけながら進めることになるかと思うが、ご了承いただきたい。

○除雪に関しての連絡先について

(市民から)

年に1～2回、集会所の裏の道路が大雪で通行できなくなってしまう。病人が出るなど、有事の際には大変困るかと思う。緊急の際にはどこに連絡すればすぐに対応していただけるものか。この地区を受け持っている業者に直接連絡しても変わらないのか。

(市から)

- ・緊急の際でも市のほうに連絡をいただければ、土日でも日直を通して建設課に連絡が来るようになっている。連絡を受けてすぐの対応となると難しいかもしれないが、確実に現場を確認しに行く。
- ・日中は交通量もあるので、あまり除雪車を出動することはないが、積雪量が多く、全く通行が出来ないなどの状況であれば、除雪車を出動させているので、これからも同じように対応していきたい。
- ・朝方、急に大雪が降るとうまく除雪対応が出来ないこともあったが、今年度はそういった事態にも対応できるように業者に指導をしていきたいと思う。

(市民から)

除雪は市の指示で行っているのか。

(市から)

- ・通常の除雪に関しては、業者に任せている。基本的には10センチ以上の降雪が見込まれる場合には出動するようにしている。ただ、かなりの距離の除雪を行っている業者だと、午後10時頃から出動したりしているようだ。よって、雪が降る時間帯によってはどうしても雪が残っているところも見受けられる。こればかりは、何社かに頼んで一斉に除雪するというわけにもいかないなので、我慢していただいている状況である。

(市民から)

施工業者が判断しているということなのか。

(市から)

- ・そのとおりである。ただ、10センチ積もっているかどうかなど業者が判断に困るような場合には、市でも現場確認をしながら、出動についての指示を出している。

○ごみの分別について

(市民から)

日本で出る再生資源が他国で売れない状況になってきている中、なぜごみの分別を進めているのかと考えている。高熱で処理してしまえば分別する必要がないのではないか。

どこの国でも再生資源を買ってくれないのであれば、焼くしかないと思う。わざわざ分別しなくても、もっと効率的にごみ処理を行う方法があるのではないか。

(市から)

- ・資源の再利用を考えると、分別したほうが良いのではと考えている。資源の再利用率は青森県が全国的に低い水準にある。面倒ではあるが、使えるものは分別して再利用していただきたいと思う。
- ・焼却炉を使い、800度以上で焼けばダイオキシンが出ないといわれている。ただ、そうするとごみの量も多くなる。捨てればゴミ、分ければ資源、と広告などで耳にするとおり、資源が少ない日本では再利用を進めていくことが大事だと考えている。

○神社入り口の除雪について

(市民から)

神社の入り口から神社社殿までの道を管轄しているのは市なのか個人なのか。除雪が入っていないようなので、どこで管轄している道路なのかを知りたい。

(市から)

- ・調べて回答する。

○蒲田地区で造成中の道路における排水の流入先について

(市民から)

今造っている道路の高さを見ると、真ん中が張っているように見える。道路の端に行けば水が捌けるかもしれないが、真ん中では水が捌けないのではないかと考えているのだが、何のために真ん中を張ったのか。

(市から)

- ・今新しく造る道路の路面排水をキャッチしながら、その水を両脇の水路に流すような形になるので、どうしても道路の高さは両側の道路高と同じか、またはそれよりも若干高めであれば、雨水などを排出することができない。
- ・もともと利用されている砂利道の宅地のほうは、地盤が低いので、その排水をキャッチするのは難しいかと考えている。ただ、現状でも水路自体は入っているので、そういった側溝を利用していくような形で考えている。
- ・今ある道路よりも低く道路を作ることは難しいことをご理解いただきたい。

(市民から)

両脇に水路があるわけだから、側溝と側溝をつなげればどうか。

(市から)

- ・道路に降った雨も流すことが必要になるので、道路が平らだとどうしても側溝に流れていかないため、若干だが道路の真ん中をあげている。